

## 新潟県福祉サービス第三者評価結果公表基準

## ① 第三者評価機関名

公益社団法人新潟県社会福祉士会

## ② 事業者情報

名称：社会福祉法人愛稚会	種別：保育所
代表者氏名：翠松保育園	定員：70名 (利用人数 81名)
所在地：〒950-2055 新潟市西区寺尾上2丁目3番73号	
連絡先電話番号： 025-269-3262	FAX番号： 025-269-3563
ホームページアドレス	<a href="http://suishou.ed.jp/">http://suishou.ed.jp/</a>

## ③ 総評

## ◆ 特に評価の高い点

## 1. 異年齢児間の縦割り保育の中で、豊富なプログラムが実践されている

保育園開設時の創始者の思いを受け継ぎながら、「もうひとつのおうちで育ちあう子ども達」との保育目標を掲げ、「元気な子ども」「やさしい子ども」「つくり出す子ども」の育成を目指して保育の実践が行われている。年齢を超えて、裸足で一緒に元気いっぱい遊び、給食の時間は年長児と年少児と一緒に食事をし、色々な場面で年長児がお世話をしている微笑ましい姿が保育室内で行きかっている。また、昼寝の布団は年長児が全員の分をきちんと敷き詰めたり、当番制で0・1歳児のお世話をしたりと、自然に思いやりの気持ちが育つような取り組みを行っている。

子どもたちが創造力を持ち、豊かな体験ができるようにと、「絵本」を大切にした取り組みを行っている。保護者も利用できる小さな図書室を保育園内に整備し、園で多くの絵本を用意しているほか、年長児が地区の図書館から本を借りてきて、それを他の子どもが園で楽しんだり借りることができる仕組みとしている。毎日園長先生から絵本を読んでもらう時間が設けられており、子どもたちにとって、楽しみなデイリープログラムの一つになっている。一年の中で「一人の作者の絵本の世界」を体験できるように、作品展のテーマにしたり、おやつ作りや給食の献立に絵本の中のイメージを取り入れる等、絵本を活用しながら、豊かな感性が育まれるように保育が行われている。今年度の作品展のテーマはさとうわきこさんの『せんたくかあちゃん』であったが、玄関に入ってすぐに「雨のせかい」を体験し、抜け出すと子どもたちの作った洗濯物が一面に飾られてストーリーが再現されるなど、子どもの豊かな心が十分に感じ

られる世界が作られ、見学に来た保護者から感嘆の声が聞かれていた。

また、月に一日はデイリープログラムを取り払い、一日、登園から帰宅まで「好きな遊びをする日」が設定されていたり、子ども達が自由に材料を選んで「物づくり」が行えるように、道具や材料が揃えられた部屋を設置するなど、全職員が81人の子ども一人ひとりを受け止めて、一人ひとりの成長を願い、関わっている様子を感じ取れる。

園内では亀やメダカの飼育、園庭には遊具のほかに大きな木や、花壇、畑などがあり、子どもたちが木登りを楽しんだり、畑で種を蒔いたり、自然を観察し植物や虫と触れ合う機会も大切にしながら心身の成長を育んでいる。

## 2. 食育活動に熱心に取り組んでいる

「子どもたちはたくさん食べないと元気に遊べない」との考えのもと、楽しく食事ができるように取り組んでいる。畑で収穫した野菜や食べ物に対する感謝の気持ちを忘れないように保育士が「ままごと」を通して「食の大切さ」を園児に伝えたり、一人ひとりが美味しく食べられるように、調理師が全園児の食事状況を認識して、盛り付けや量に配慮している。時々バイキング形式にしたり、絵本の中の献立をワンプレートで提供したり、少人数で楽しく食べる食卓作りを行うなど、楽しみながら「食」を大切にする取り組みを行っている。また、子どもたちが下ごしらえや給食室での味見、放送での献立紹介、片付けなどを体験できるようにし、食事に対する感謝や興味が持てるよう工夫している。おやつは毎日手作りのものを提供し、園児や保護者からも高い評価を受けている。特に手作りの焼き立てパンは子どもたちの楽しみになっている。献立内容は玄関に展示し、好評な献立はレシピの提供も行い、保護者から喜ばれている。

## 3. 職員の育成や記録の技術が確立している

今回の第三者評価にあたっての職員の自己評価結果からも「チームワークの良さ」が伺える。経験の長い職員は指導的立場にあり、新人教育プログラムに基づいた指導・助言を行いながら、職員育成に努めている。新人職員にとっては身近な相談・助言者でもあり、いつでも相談できる関係性が築かれているため、不安なく技術の習得が出来ている。このことは、職員の離職率の低さからも伺うことができる。

園が子どもたち・保護者にとって『もうひとつのおうち』となり安心して過ごせる場となる、という開設当初からの理念にそって、職員は、年数回の自己評価やカリキュラム検討会での保育の評価等を通じて自らを振り返りながら、理念を大切な拠り所として、子どもたちの最善の利益を優先し、一丸となって日々保育の実践に取り組んでいる。

また、園長はリーダーとしての役割を認識し、3ヶ月に1回職員との面接を実施し、スキルアップシートを基に研修の評価や目標が達成できているかを話し合い、確認している。職員はそれぞれプロジェクトチームの中で、自身の役割を認識し、チーム間で検討を重ねながら、より質の高い保育が提供できるように取り組んでいる。

園児一人ひとりの情報は、入園当初から全保育士の様々な視点を通じて集約されており、ケース検討を重ねながら、全職員がすべての子どもたちの把握に取り組んでいる。園独自の指導計画、面談記録、保育日誌が作成されており、記録は一人ひとりの成長過程が詳細に記載され、様式も分かりやすく整理された内容になっており、的確な記録の書き方として評価できる。

## ◆ 改善を求められる点

### 1. 地域との交流の機会を増やしていくことが望まれる

家族構成の変化から核家族の中で暮らす子どもが増えていることを踏まえて、より思いやりや優しさを育むためにも、年代を超えて多くの地域の人々と触れ合う機会や、地域行事に参加する機会の確保に期待したい。ポスターを利用して、地域に向けて園の行事案内等を発信しているが、一般住民が来園することが少ない現状から、案内方法の検討を図ることや、多種のボランティア受け入れ等の日常的な関わりの中で、関係性を築いていくことが望まれる。地域住民の「力」を次世代に繋いでいくことも、地域の中で保育事業を展開する役割と捉えながら、今後はより一層相互交流に向けて積極的に取り組んで行く事を期待したい。

また、高齢者施設の訪問の他にも、小学校や他の保育所との交流や、多彩な社会資源を活用して、体験を積み重ねていくことを望みたい。

### 2. 保護者とのより一層の関係性の構築が望まれる

入園にあたっては、保育園の理念、方針、保育計画、行事等について説明し、保護者も理解を得ている。しかし、日常の保育の中で、園と保護者双方の思いや考え、連絡事項が通じていないことがあり、時に保護者の不満に繋がっていることが今回の第三者評価における保護者アンケート結果からも伺える。多様化する保護者のニーズ全てを受け入れることは難しいが、「園の方針」という説明に留まらず、保護者の参加を得ながら検討を積み重ねていくことを期待したい。登園時に家族から子どもを受け継ぎ、家族を送り出す際の職員の「行ってらっしゃい」、迎え時の「おかえりなさい」の声かけには非常に暖かさが伺えるので、今後もさらに、日頃から何でも言える・相談できる関係作りの構築に取り組むことを望みたい。

### 3. 地域ニーズを経営計画に反映する取り組みが望まれる

園長は地区のコミュニティ協議会の構成員であり、他職種の専門職と会する機会も多く、地域ニーズの把握に積極的に取り組んでいる。さらに保育ニーズについては、保護者からの意向調査とともに毎年分析を行っている。しかし、保育を取り巻く制度の事情から毎年の委託費が把握しづらい現状にある為、地域ニーズについては、中・長期の収支計画に反映することが難しい状況にある。保育目標を具体的に実践していくためには、中・長期計画を具現化し、収支の裏付けを行うことは不可欠である。今後は中・長期計画の収支計画策定を行っていくことを期待したい。

④ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

(H26. 4. 3)

平成 20 年度に第 1 回目の第三者評価を受審し、今回は 2 回目の受審でした。前回の受審で見えて来た課題について、継続的に職員全体で検討・実践し、質の向上に努めてきた成果を見ていただく機会でもありました。

新たに見えて来た課題もありましたが、開設当初より大切に積み上げてきた保育を評価して頂きましたことは、私共の保育の励みになります。今後も法人理念や保育目標を大切にしながら職員一同、真摯に向き合っていきたいと考えております。また、その取り組みについては、子どもの最善の利益を考慮し、保護者の皆さんに寄り添いながら保育の質の向上に努めていきたいと考えております。

(H . . )

(H . . )

⑤ 評価細目の第三者評価結果（別添：公表様式 2 のとおり）

# 評価細目の第三者評価結果

## 【 保育所版 】

### 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

#### I-1 理念・基本方針

I-1-1 (1) 理念、基本方針が確立されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-1-1(1)-① 理念が明文化されている。	a	<p>●理念、基本方針が確立されている</p> <p>「地域児童福祉に貢献できる保育園」を法人理念として掲げ、「もうひとつのおうちで育ちあう子どもたち」という基本方針の中、①げんきな子ども、②やさしい子ども、③つくりだす子どもという簡潔でわかりやすい表現で目標が明示されており、インターネット、パンフレット、入園のしおり、保育課程に明記されているとともに、毎月のお便りにも基本方針が記載されている。また、事業所内にも所々に基本方針と目標が掲示されており、職員の業務に対する意識付けや行動規範にもつながっている。法人理念や基本方針は、保育所の使命や目指す方向、考え方を十分に伺うことができるものである。</p>
I-1-1(1)-② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	
I-1-1 (2) 理念や基本方針が周知されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-1-1(2)-① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	<p>●職員や保護者に対し、理念や基本方針の周知に取り組んでいる</p> <p>理念や基本方針については、職員に対し、職員採用時や年度当初に事業計画や保育課程を配布し説明するだけでなく、職員会議やカリキュラム検討会等で検討を行っている。また、個別面談を通して理解の確認が行われており、継続的に職員への周知に取り組んでいる。保護者についても入園説明会、保育説明会で入園のしおりや保育課程を用いて理念や基本方針を説明したり、毎月のお便りに必ず基本方針を記載するなど、継続的な周知に努めており、今回の第三者評価における保護者アンケートからも周知されていることを伺うことができる。</p> <p>●地域に向けて、より積極的な取り組みが望まれる</p> <p>コミュニティ協議会で理念や基本方針を説明したり、区の保健師や来園者に対してパンフレットを配布するなど、理念や基本方針の周知に向けた取り組みは行われているが、住宅に囲まれている立地環境にもあるため、より積極的に各関係機関や自治会に向けて発信し、保育サービスについての理解を促していくことが期待される。</p>
I-1-1(2)-② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	b	

#### I-2 事業計画の策定

I-2-1 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-2-1(1)-① 中・長期計画が策定されている。	b	<p>●中・長期計画の収支計画策定が望まれる</p> <p>理念の実現に向けて組織、財務、人事、事業と多角的に中・長期計画が策定されており、中・長期計画を年度の事業計画に反映することで計画の実現に向けた取り組みが行われている。しかし、毎年の委託費が把握しづらい現状から中・長期の収支計画は策定されていない。</p> <p>保育所を取り巻く現在の状況下では収入面の中・長期的な計画を策定することは非常に難しいことではあるが、中・長期計画をより具現化していくためには収支の裏付けが不可欠であるため、経営資源を踏まえながら、中・長期的視点での収支計画策定への取り組みを期待したい。</p>
I-2-1(1)-② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	b	

I-2-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-2-(2)-① 事業計画の策定が組織的に行われている。	a	<p>●事業計画が適切に策定され、職員や保護者に周知されている</p> <p>事業計画の策定にあたっては、職員との面談や職員会議等を通して評価することで課題を明確にし、次年度の計画に反映させている。また、保護者からはアンケートや個別懇談会で意見を集約し、事業計画に反映させている。進捗状況の確認は理事会開催時に行われており、その際に、交代で職員が参加し、必要に応じて意見を述べる機会が設けられている。周知については、職員には事業計画を年度当初に配布し、説明を行い、保護者へは保育課程に事業計画の内容を盛り込み、年度当初に全家庭に配布するとともに、保育説明会にて計画内容を説明するなど、積極的に周知に向けての取り組みが行われている。</p>
I-2-(2)-② 事業計画が職員に周知されている。	a	
I-2-(2)-③ 事業計画が利用者等に周知されている。	a	

### I-3 管理者の責任とリーダーシップ

I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-3-(1)-① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	<p>●園長は管理者としての役割と責任を果たし、リーダーシップを発揮している</p> <p>園長の役割は職務分担表に明記されており、職員会議等で自らの役割と責任を表明し、実践している。また、職員の年間研修計画の中にも園長として求められる職員像と研修内容が明記されており、研修と自己研鑽により専門性を高めることができるよう努めている。防災、事故等、有事におけるマニュアルの中でも園長の役割や責任が明示されているとともに、苦情対応についても園長が積極的に解決に向けて取り組んでおり、管理者として十分にリーダーシップを発揮している。</p> <p>●継続的な法令遵守に向けた取り組みに期待したい</p> <p>園長は、法令遵守に向けて自己研鑽しており、「保育所運営ハンドブック」を職員全員が閲覧できる場所に設置し、全職員が理解と周知を図れるように努めている。今後は、保育や福祉関係法令だけでなく雇用・労働・その他関連する諸法令についてさらに職員の理解を深めるための具体的な取り組みを検討するとともに、職員に対して関係通知の回覧や職員会議での報告だけでなく、研修等を通して法令遵守の意識を高めるように取り組むことが期待される。</p>
I-3-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	
I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-3-(2)-① 質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	a	<p>●園長は、質の向上にむけて指導力を発揮している</p> <p>園長は、職員に対し、3ヶ月に1回、パート職員には半年に1回、面談を行っており、面談を通して現状の把握、職員へのアドバイスをし、保育の質、職員の資質向上に向けて積極的に取り組んでいる。また、よりよい保育の実現を目指し、4つのプロジェクトチームを編成し、各職員は定期的に研修・検討を行っており、園長は、各プロジェクトに対しても積極的に参画し、効果的な遂行に向けて助言を行うなど、指導力を発揮している。</p> <p>●経営の効率化に向け、さらなる分析を期待したい</p> <p>園長は、職員からの意見をもとに業務の効率化を常に検証し、改善に努めており、国の配置基準以上の職員を配置するなど、働きやすい職場環境づくりに配慮しながら、子どもたちの最善の利益を考慮した経営に努めている。しかし、平成27年度に法改正が予定されていることから財政状況については予測が立てにくく、財務分析を十分には行いきにくい状況ではあるが、経営状況やコストバランスの分析を継続的に行ない、その結果に基づいて経営のさらなる効率化と改善に向けて取り組んでいくことを期待したい。</p>
I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	b	

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ－１ 経営状況の把握

Ⅱ－１－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅱ－１－（１）－① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	b	<p>●経営環境の変化に対し、的確な対応が望まれる</p> <p>地域の特徴や変化については、地区のコミュニティ協議会や連絡会にて情報収集、情報交換を行ったり、新潟市保育園再編計画等を参考にして把握しているが、法人独自にデータ化するまでには至っていない。そのため、園児の推移が不透明であることから経営状況を分析することが難しく、中、長期計画に具体的に盛り込むことが困難な状況にある。環境変化に適切に対応した事業経営が維持できるよう把握した情報を活かす取り組みが望まれる。経営状況の分析については、毎月、会計事務所から報告、助言を受けており、決算時には全職員に資金収支決算書を配布し、経営状況や課題を職員に周知するよう取り組んでいる。</p> <p>●外部監査の検討が望まれる</p> <p>中・長期計画の中にも外部監査導入の検討が挙げられており、導入効果等の情報収集を行っている状況にある。会計事務所からの助言は得られているが、今後はより適切な財務管理や会計処理を行う体制を整備し、財務状況に関する助言をもとに経営改善や法人運営の透明性を確保するため、外部監査導入の検討を継続していくことを期待したい。</p>
Ⅱ－１－（１）－② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	b	
Ⅱ－１－（１）－③ 外部監査が実施されている。	c	

Ⅱ－２ 人材の確保・養成

Ⅱ－２－（１） 人事管理の体制が整備されている。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅱ－２－（１）－① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	b	<p>●人員体制についてのプラン策定が望まれる</p> <p>離職率が低く、職員が充足していることから、人員体制についての具体的なプラン策定には至っていない。国の施策が不透明であるため、具体的なプランが策定しにくい状況でもあるが、中・長期計画において人事管理制度の導入を目標に掲げていることから、人員に関するビジョンをより具体化することが望まれる。</p> <p>保育士の資格にとどまらず、幼稚園教諭の資格取得を支援するなど、有資格職員の配置に向けては積極的な取り組みがみられている。</p> <p>●人事考課制度の有効的活用が望まれる</p> <p>園長は、人事考課の目的や制度を理解しており、求められる職員像と研修内容を各階層ごとに明記し、研修体系として確立している。そして、各職員は研修内容に基づいて個人目標を設定し、スキルアップシートを活用しながら資質向上に取り組む体制となっている。園長は、定期的に面談を行いながら、各職員の研修の自己評価を踏まえて助言、指導を行うことで人材育成に努めている。今後は、客観的な評価基準を明確にすることで、人事考課制度をより有効に人材育成に活用していく取り組みが望まれる。</p>
Ⅱ－２－（１）－② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	b	

II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
評価細目	評価結果	コメント
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	b	<p>●職員の就業についての配慮がなされているが、今後は具体的なプランに反映することが望まれる</p> <p>園長は、有給休暇や時間外労働を定期的にチェックし、職場環境の把握に努めている。また、園長が職員との面談を通して、保育等への取り組みの実態や意向、意見を把握し、副園長、主任と協議して職場環境の改善に取り組んでいる。しかし、改善策が、人員体制への具体的なプランに盛り込まれるまでには至っていないため、今後は、把握された意向や意見の分析結果を具体的なプランに反映していくことが望まれる。</p>
II-2-(2)-② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	b	<p>●職員の健康の維持にさらなる配慮が期待される</p> <p>職員の福利厚生として新潟市勤労者福祉サービスセンター(ニパイ)に加入し、総合的な福利厚生事業が実施されている。また、有給休暇や育児休暇などが取得しやすい環境であり、働きやすい職場づくりに努めている。職員間においてもチームワークを大切にしており、後輩職員が先輩職員に相談しやすい環境にある。今後は、心の健康が維持できるよう、職員の悩みに対し、カウンセラーや専門家と連携できる体制づくりに取り組んでいくことが期待される。</p>
II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
評価細目	評価結果	コメント
II-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	<p>●職員の質の向上に向けた研修が整備されている</p> <p>事業計画の中に職員研修基本姿勢が明示されており、職員の年間研修計画が作成されている。年間研修計画には、ねらい、階層ごとに求められる職員像と研修内容、配慮すること、外部研修計画などが記載されており、具体的な取り組みやすい内容となっている。また、年間研修計画から個々の研修計画が策定されており、自己評価に基づいて園長との定期的な面談を行うことで、職員の質の向上に向けた取り組みが行われている。外部の研修に出席した際は、復命書を提出し、園内報告研修会を実施するだけでなく、全職員へ回覧を行うことで周知に努めている。</p>
II-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	a	<p>●研修の成果がさらに職場に活かされていくことが期待される</p> <p>職員の研修体系が整備され、取り組まれている。しかし、研修成果を評価・分析するまでには至っていないため、職員の資質向上にむけ、研修成果を評価・分析し、その結果を職場に活かす取り組みが今後に期待される。</p>
II-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	b	
II-2-(4) 実習生の受入れと育成が適切に行われている。		
評価細目	評価結果	コメント
II-2-(4)-① 実習生の受入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	<p>●実習生の受け入れ体制が整備されている</p> <p>実習生受け入れに関するマニュアルが整備されており、実習生受け入れに対しての意義や基本方針が明確になっている。また、受け入れの手順だけでなく、助言指導の書き方もマニュアル化されており、職員が統一した指導を行い、効果的な実習が行えるよう体制が整備されている。</p> <p>●保育士養成校とのより積極的な連携を期待したい</p> <p>保育士養成校も多数あり、養成校によって実習プログラムが異なる現状ではあるが、養成校とより積極的に連携を図りながら、実習内容が計画的に学べるよう効果的なプログラム策定に取り組むことが望まれる。</p>



## II-3 利用者の安全・安心の確保

II-3-(1) 利用者の安全・安心を確保するための取組が行われている。		
評価細目	評価結果	コメント
II-3-(1)-① 緊急時(事故、感染症の発生時など)における利用者の安全・安心を確保するための体制が整備されている。	a	<p>●利用者の安全・安心を確保するための体制整備が確立している</p> <p>園長は子どもの安全・安心を守り、いかなる場合も、子どもの最善の利益を最優先にしなければならぬことを明確な目的意識とし、リーダーシップを発揮している。職員は「リスクマネジメントプロジェクト」「食育と保健に関するプロジェクト」「保育環境向上のためのプロジェクト」等のチームを作り、定期的にリスクについて検討したり、マニュアル等の評価に取り組んでいる。各チームにより検討された内容は、全体研修において全職員に周知している。また、今年度は全体研修の中で「KJ法」によるリスクマネジメントの学習や、ロールプレイによるリスク回避への研修を実施し、全職員が統一した意識の中で、より安全性が確保できるように取り組んでいる。</p> <p>また、「子どもの遊び」の中で安全性を重視するか、成長と捉えて挑戦させるか等、保育所としてどのように対応して行くのかを、経験や情報、リスクの分析を踏まえながらの検討も行っている。「元気に登園した子どもは、元気に自宅に帰りたい」との職員の思いが、各プロジェクトチームの検討会議録の中から読み取れる。</p> <p>●大規模災害に向けた更なる取り組みが望まれる</p> <p>想定できる災害についての検討や、設備面での防火・耐震対策、備蓄等の整備が行われている。さらに近隣住民が高齢者である事から、有事に対する避難場所としての事業所の役割が明確化されている。避難場所についての経路や初動対応については文書化されているが、大規模災害に対する取り組みについては、現在必要性を認識している段階にある。いかなる災害が発生しても、子どもの安全性を確保するために、保育所としてどのように対応するのかを明確にし、行政、地元の消防署や警察との連携、近隣住民との協力体制、地域の中での防災訓練等への参加などを通じて、体制づくりに取り組むことを期待したい。</p>
II-3-(1)-② 災害時に対する利用者の安全・安心の確保のための取組を行っている。	b	
II-3-(1)-③ 利用者の安全・安心を確保するためにリスクを把握し対策を実行している。	a	
II-3-(1)-④ 緊急時(事故、感染症の発生時など)に、迅速な対応ができる仕組みがある。	a	

II-4 地域との交流と連携

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
評価細目	評価結果	コメント
II-4-(1)-① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	b	<p>●<b>専門職としての役割を認識し、地域貢献に努めている</b> 園長は、地域のコミュニティ協議会へ積極的に参加し、地域ニーズの把握に努めるとともに、専門職としての意見を発信している。また、子育てについての教室や、講演会等で講師を担い、情報を伝えたり相談を受ける等、地域貢献に努めている。民生委員や児童委員とも情報交換を行う機会を設けて、地域全体の保育の質の向上に向けて専門性を提供している。</p> <p>●<b>ホームページやパンフレットにより、園の様子をわかりやすく情報発信している</b> ホームページは、絵本を大切にしている園の特長を表せるようにクリックすると1ページずつ本を開いて行くような仕様にするなど、工夫して作成されている。写真やイラストをふんだんに盛り込みながら、わかりやすい言葉で活動の様子や取り組み内容が紹介されており、楽しく見ることができるものとなっている。</p>
II-4-(1)-② 事業所(施設)が有する機能を地域に還元している。	a	<p>●<b>ボランティア受け入れに対する取り組みが望まれる</b> 受け入れに対する意義や方針は明文化されているが、積極的な取り組みについては十分とはいえない。園長が参加した「市のシニアワーク講演会」から把握できたボランティア側のニーズに対応して、地域住民が活躍できる場としての提供も検討したり、地域と保育所の相互交流作りの中で子供たちの体験の機会を得たり、地域に子どもたちへの理解を深めてもらうためにも、ボランティアの積極的な活用に向けて、さらに取り組んでいくことを期待したい。</p>
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	<p>●<b>地域に出向いての交流の機会をさらに増やして行くことが望まれる</b> 定期的に図書館で本を借りたり、デイサービスや有料老人ホームを訪問して高齢者との交流の機会を持ち、高齢者の人たちの喜びにも繋がっている。また、散歩を通じて消防署を尋ねた際には、仕事の役割などを聞いたり、働く車を体験することが出来ている。今後も地域行事への参加や、社会交流の場を多く持ち、体験を積み重ねていくことを期待したい。園での相撲大会や餅つき大会にはポスターを貼って地域の方への行事案内を行っているが、参加者が少ないことから、案内方法の検討を望みたい。</p>
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
評価細目	評価結果	コメント
II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	b	<p>●<b>関係機関との連携体制が整備されている</b> 地区のコミュニティ協議会福祉部に所属し地域の課題について積極的な検討を実施しているほか、民生委員や児童委員とのネットワーク化、幼保小懇談会等の各関係機関との連携が確立している。また、要保護児童対策協議会の中では、虐待に対する事例検討や解決への取り組みについて学習する機会があり、市や児童相談所との連携が図られている。保護者から相談があったときには、相談内容から的確に各関係機関に繋げることが出来ている。</p>
II-4-(2)-② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	<p>●<b>職員への説明・周知が図られるように、より一層の取り組みを望みたい</b> 地域における社会資源や、関係団体等はリスト化し、職員にも見やすい場所に設置してある。今後はさらに、各機関や団体の機能や活用について、全職員が共有し、活用できる取り組みに期待したい。</p>

II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
評価細目	評価結果	コメント
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	<p>●地域の福祉ニーズを把握するため、積極的に各関係機関との会に参加している</p> <p>地域のコミュニティ連絡協議会への参画、児童委員・民生委員との意見交換会、自治会や地域団体の会合に出席し、積極的な地域の保育ニーズの把握に努めている。把握したニーズについては、中長期計画に反映させるとともに、事業計画の中にも盛り込んで実践に繋げている。具体的な取り組みとしては、次世代育成支援や世代間交流の観点から、小・中学生の実習生受け入れ、積極的な高齢者との交流の機会の確保、育児講座の開催、初めての子どもを育てる保護者の不安への助言や、親子の絆作りを支援する『BPプログラム』の開催、緊急一時預かり、延長保育事業、障害児保育事業等を継続して実施している。</p>
II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	b	<p>●事業に対する評価実施への取り組みが望まれる</p> <p>中・長期計画、単年度の事業計画については、明文化されて全職員に周知が図られているが、今後はさらに、実施した事業について十分な評価・分析・検討を行い、地域の子育て家庭に対するより充実した支援につなげていくことを期待したい。</p>

### 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

#### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	<p>●保育に対する基本姿勢や、園の理念・方針を全職員で共有し、実践に向けた取り組みが行われている</p> <p>「子どもの最善の利益の立場にたった保育と人権尊重」を基本姿勢として、自分たちが目指す保育のあり方について日頃から職員間で話しあう機会を持っている。さらに外部研修への参加で学んだことや情報についての伝達、内部研修での学習を積み重ねて、日々の保育場面において実践している。また、子ども一人ひとりの家庭環境や個性等を全職員が把握して、指導計画を作成している。指導計画の作成によって、子どもの姿をしっかり捉えて、目標を設定し、毎月成長過程を観察しながら、職員の気づきを記録に加えて、全職員で評価を行う仕組みが作られている。職員は保育の場面で、遊びの種類や色の選択、態度等において性差や先入観を植え付けないように対応している。</p>
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a	<p>●個人情報保護についての周知が図られている</p> <p>個人情報保護やプライバシー保護については、管理規程を定めて組織として体制を整備している。職員間でも個人情報保護規定やプライバシー保護についての理解や周知が図られている。名札をつけないことや、園内の掲示、配布書類、感染症発生の情報提供、クラスたよりにおいても、内容によっては個人名が特定されないように配慮している。また、写真の掲載等については、事前に保護者からの承諾を得ている。職員間では子どもの安全性とプライバシーの確保の両極において検討を重ねながら、子どもの最善の利益を守ることを優先に、規程等の見直しを行っている。</p>

Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ-1-(2)-① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備し、取組を行っている。	b	<p>●意向調査や個別懇談会を定期的実施し、意見や要望の把握に努めている</p> <p>毎年2月・3月に食事や行事に対するアンケート用紙を配布して、保護者からの意見・要望を把握している。また、個別懇談会においても意見や意向の把握に努めている。寄せられた意見や要望については、全ての内容に園の回答を記入して、4月の保護者会にて説明・公表を行っている。食事に関するアンケートについては分析を行い、表・グラフを活用して、分かりやすく保護者にフィードバックしている。意向調査の結果については、保護者役員会や、職員間で検討するとともに、自らの保育サービスを振り返る機会としている。子どもからは職員が直接感想や意見を常の保育の場面で聞いているほか、保護者からの代弁で把握している。</p> <p>○意向調査の結果に対する取り組みを期待したい</p> <p>結果については、職員間や役員会において検討しているが、保護者への回答の中には、「園の方針である」「実施を検討中」で終始しているところがある。保護者が求めている検討過程や結果、実践に向けた取り組み等についての情報を提供して行く取り組みを期待したい。</p>
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	<p>●苦情・相談に対応する体制が整備されている</p> <p>「入園のしおり」の中に、苦情に対する園の姿勢と、受付窓口や第三者委員の設置等の組織体制について分かりやすく記載しており、保護者会においてはさらに口頭で説明を行い理解、周知を図っている。苦情は貴重な意見として捉えて、迅速な対応を行うとともに、職員間で内容の共有と検討を重ねて改善点を見出し、保育サービスの実践に繋げている。改善を行った内容については、その後評価を行っている。苦情は他の保護者が申し出やすいようにするために、慎重な取り扱いを行った上で公表している。</p>
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	b	<p>●意見が言いやすい関係作りに更なる取り組みが望まれる</p> <p>マニュアルの整備や記録については適切に行われている。保護者から意見が寄せられた際にも迅速に対応が行われている。一方で送迎時等の日常的な中で、保護者がなかなか意見や要望を伝えることが出来ないと感じていたり、職員の思いと保護者の理解とにズレがあり保護者へ意図が上手く伝わらない場合があることが今回の第三者評価における保護者アンケートから読み取れる。日頃から話しやすい雰囲気作りに取り組むとともに、多様化する保護者の意見に対応する姿勢について、マニュアル等の見直しを行っていくことが望まれる。</p>
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	

### Ⅲ－２ 福祉サービスの質の確保

Ⅲ－２－（１） 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ－２－（１）－① 福祉サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	b	<p>●<b>評価に対する組織の姿勢が明確化している</b>                      評価についての組織としての姿勢や取り組みについては明文化し公表している。第三者評価を継続的に受審する事で、全職員が自己評価に取り組み、自らサービスの実践について振り返る機会としている。第三者評価結果については、公表するとともに保護者へも結果を伝えている。さらに結果から改善点を検討し、保育の質の向上に繋がる様に計画を立てて取り組んでいる。単年度での取り組みが困難な場合は、中・長期計画に反映して取り組む姿勢が伺える。前回の評価で「楽器に自由に触れる機会が少ない」との改善点に向けては、職員がアイデアを出しあった結果、いつでも簡単に取り出せるユニークな楽器棚が設置されており、評価を活用した取り組みの実践がうかがえた。</p> <p>●<b>職員の自己評価が定期的実施されている</b>                      職員は単年度ごとに職員の質の向上を目指したスキルアップシートを作成し、管理層から期待される職員としての役割を確認するとともに、自己の目標を明確にして実践に向けて取り組んでいる。スキルアップシートは前年度の反省を踏まえて、新たな目標設定と、研修計画等を記載し、3ヶ月ごとに評価を行う仕組みになっている。評価の際には園長と面接も行き、助言をもらいながら、更なる目標を設定したり、目標の修正、実現方法等の見直しを行いながら、実践できるように取り組んでいる。</p>
Ⅲ－２－（１）－② 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	b	<p>●<b>評価・分析結果を職員参画の基で改善していく体制作りが望まれる</b>                      レベルの高い保育サービスが提供されているが、職員からの提案や課題に向けた検討の記録や、各プロジェクトチームによる評価内容の記載、第三者評価結果に対する検討内容等の記載が少なく、職員の評価に向けた認識にバラつきがうかがえる。園全体として質の向上に対する改善に向けた取り組み、評価の実施方法に対する仕組み作りを職員参画で実施して行くことを期待したい。</p>
Ⅲ－２－（２） 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ－２－（２）－① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a	<p>●<b>保育サービスの水準を確保するための仕組みが構築されている</b>                      園の方向性や保育に対する姿勢については明確に示されており、全職員で統一した理解が図られているとともに、保護者へは「入園のしおり」の中に記載しているほか、保護者会等において説明している。「入園のしおり」には、保育目標や年間・月の行事計画、食育計画、健康管理、災害時の対応などが詳細に文章化されている。また、子ども一人ひとりの個性や家庭状況を把握し、個性の尊重やプライバシー保護への取り組みも行われている。</p>
Ⅲ－２－（２）－② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	<p>経験豊富な職員が多く、標準的な実施方法で保育サービスが実施され、経験の浅い職員に対しても指導・教育が適正に実施されている。また、保育サービスについては、定期的な評価を職員会議や月1回開催するカリキュラム検討会の中で話し合ったり、記録の見直しを行う等全職員が関わって、質の高いサービスの提供を目指している。</p>

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	<p>●個別の指導計画、評価、記録が適正に行われている</p> <p>指導計画は健康診断、身体測定、観察のほか、目標や達成内容について詳細に記載しており、子ども一人ひとりの成長過程が明確に読み取れるものとなっている。</p> <p>指導計画は月ごとに一人ひとりの子どもの姿やねらい、家族との状況などを担任が作成している。結果を評価し、反省等を踏まえて翌月の計画作成に繋げている。毎月担任がカリキュラム検討会に持ち寄り、報告するとともに、検討課題があれば他の職員からの意見を聞いてその月に適した計画作成に取り組んでいる。また、園内研修においてケース検討を実施している。</p>
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b	<p>●記録の管理が適正に行われている</p> <p>記録の保管や保存は適切に行われている。入園から卒園までの記録を保存し、成長過程を把握したいとの園の方針から、全ての記録をファイリングして保管している。廃棄処分は現状では行っていないが、前回の第三者評価で改善点としてあげられた管理規定が作成され、管理責任者の設置が行われている。</p>
Ⅲ-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	<p>●情報開示についての方針を明確にし、職員への周知を図ることが望ましい</p> <p>個人情報保護規程に関する研修等は実施しており、職員間でも周知されている。今後はさらに多様化する保護者への対応が求められることから、情報開示についての方針や仕組みについても、職員研修を実施することを期待したい。</p>

Ⅲ-3 福祉サービスの開始・継続

Ⅲ-3-(1) 福祉サービス提供の開始が適切に行われている。

評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ-3-(1)-① 利用希望者に対して福祉サービスの選択に必要な情報を提供している。	a	<p>●保育サービス開始にあたって、情報が的確に提供されている</p> <p>園の方針や特長、活動内容については、ホームページ、パンフレット等に分かりやすく記載している。公民館作成の情報誌等にも掲載し、広く情報が伝わるように工夫している。見学については、見学者の都合に合わせていつでも受け入れを行っており、その際には丁寧な説明を実施している。</p> <p>入園にあたっては、「入園のしおり」を使用して、園での過ごし方や保育サービス内容について保護者に分かりやすく説明している。</p>
Ⅲ-3-(1)-② 福祉サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	<p>●利用開始にあたって保護者の理解を得るためのさらなる仕組み作りが望まれる</p> <p>「入園のしおり」の配布や保護者会において丁寧に説明しているが、理解度については個人差があり、すべての保護者が理解しているかどうか把握出来ないところが現状として課題になっている。今回の福祉サービス第三者評価における保護者アンケートでも、一部の保護者から「説明がない」「分からなかった」との声が聞こえていることから、説明方法について様式・内容・状況を確認し、「伝え方」への更なる検討を期待したい。</p>

Ⅲ-3-(2) 福祉サービスの継続性に配慮した対応が行われている。

評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ-3-(2)-① 事業所(施設)の変更や家庭への移行などにあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	c	<p>●サービスの継続性に配慮した手順と引継ぎ書の作成が望まれる</p> <p>保育所の転園等にあたっては口頭により情報提供を行っているが、今後は、子どもの状況や家族状況について、個人情報に配慮しながらも、引継ぎ・申し送りの手順、文書を定めて、的確に伝わるような取り組みを期待したい。また、保育サービス終了後も保護者が相談を希望する場合について、担当者や窓口は決められていないが、園長がいつでも相談を受けられる事を伝えている。今後は子どもや保護者の不安や困りごとを周囲が見過ごすことがないように、園としても担当者や窓口を設置し、相談・助言が行える体制であることを保護者に伝えて、役割を担っていくことを望みたい。</p>

### Ⅲ－４ 福祉サービス実施計画の策定

Ⅲ－４－（１） 利用者のアセスメントが行われている。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ－４－（１）－① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	a	<p>●一人ひとりに合ったアセスメントが十分に行われている</p> <p>入園前のチェック表をはじめ、児童生活調査表、保育経過記録保護者との個別懇談記録や日々の特記事項、ケース会議の記録、食事調査表、アレルギー調査表などが、わかりやすく記入・整理されており、個々のファイルに卒園までの記録が見やすくまとめている。「もうひとつのおうち」の目標を实践する為に、一人ひとりの子ども達の個人ファイルを活用し、情報を共有しながら、職員全員で保育している。特に、入園時のアセスメントが丁寧に行われており、保護者からも評価を得ている。</p> <p>カリキュラム検討会で細かくケースごとに検討したうえでアセスメントが定期的に見直されており、保育実践に的確に活かされている。</p>
Ⅲ－４－（２） 利用者に対する福祉サービス実施計画が策定されている。		
評価細目	評価結果	コメント
Ⅲ－４－（２）－① 福祉サービス実施計画を適切に策定している。	a	<p>●指導計画が策定され見直しが行われている</p> <p>他の計画との整合性や子ども達の成長の様子をきちんと把握・確認したうえで、一人ひとりの指導計画が策定されている。職員のチームワークも良くそれぞれの職種が主体的にプロジェクトチームを作り、保育の改善を行い、子どもの様子や取り組みの過程や振り返りが出来るような書式を使い記録している。また、毎月のカリキュラム検討会において指導計画の見直しが行われており、必要に応じて、子どもの健康状態、気候等に合わせて柔軟な対応が行われている。</p>
Ⅲ－４－（２）－② 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	b	<p>●保護者の意向を反映した見直しが望まれる</p> <p>指導計画は子どもの成長が明確に記載されたものであるが、見直しにあたっては保護者の意向を丁寧に聞き取り、検討を重ねたり、全職員で内容の共有を図りながら協働していく取り組みが望まれる。また、必要に応じて保護者に説明する場を多く作り、保護者の理解を得るためのシステム作りの強化に期待したい。</p>

評価対象Ⅳ 福祉サービス内容

A-1 保育所保育の基本

A-1-1 (1) 養護と教育の一体的展開		
評価細目	評価結果	コメント
A-1-1(1)-① 保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育課程を編成している。	a	<p>●保育課程に基づいて保育計画が策定されており、職員間で統一された保育サービスの提供ができる仕組みが確立されている</p> <p>保育課程は1枚の用式の中に、養護と教育はもちろん、食育計画や職員の研修計画・健康・安全・地域交流などの項目がバランスよく効果的に作成されており、他の計画との関連性をもたせながら、職員は専門性の向上にむけて熱心に保育課程の実践に取り組んでいる。</p> <p>各保育計画は職員全員が参画し、関連法令、保育指針、保育課程、倫理要綱等の趣旨に基づき丁寧に作成している。作成にあたっては創意工夫がみられ、確実に実施されており、年度末に反省評価し、次年度に繋げている。養護と教育の一体的な展開に向けて、子ども一人ひとりの興味や関心を引き出しながら活動が出来るような環境設定がされており、異年齢児や全職員との関わりを保育の中で積極的に取り入れている。</p> <p>衛生面や保育のマニュアルは具体的で、写真を効果的に取り入れるなど、わかりやすく活用しやすいよう工夫され、職員全体に有効に周知徹底するためのシステム作りがなされている。</p> <p>●小学校との連携が期待される</p> <p>就学にあたっての保育要録による情報提供は行われている。地域の育児相談やコミュニティー協議会、他の関係機関との連携は充実しているが、小学校との交流が少ない。小学校の子ども達との交流の他、教員との意見交換、合同研修等の機会を持つなど、子どもや保護者が小学校以降の生活について見通しが持てるような取り組みを期待したい。</p>
A-1-1(1)-② 乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a	
A-1-1(1)-③ 1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a	
A-1-1(1)-④ 3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	a	
A-1-1(1)-⑤ 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかわりに配慮されている。	b	
A-1-1 (2) 環境を通して行う保育		
評価細目	評価結果	コメント
A-1-1(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が整備されている。	a	<p>●保育サービスに適した、人的・物的環境が整備されている</p> <p>子ども達が安心して生活できるよう、色彩や音、素材、配置など環境的配慮の他、室内の温湿度計測表をチェックしながらの換気やエアコンを使用している温度調節など、細かな配慮がなされている。感染予防のため園内外の消毒を保育士が行うことはもちろん、看護師が朝の健康観察の際に子ども一人ひとりの状態把握と環境チェックを同時に行っている。</p> <p>職員は、それぞれの職種が持つ専門性を生かしながらチームワーク良く、温かい雰囲気の中で保育を実践している。保育園全体に落ちついた雰囲気があり、職員の無意味な声掛けや大声や指示語などがほとんど見られず、一人ひとりの生活リズムに合わせた優しい対応が多く見られる。また、子ども達の育ちに応じて基本的な生活習慣の定着が図られており、縦割り保育が生活の中でプラスの効果を生んでいる。計画的かつ日常的に食事の際には年長児が年少時の子どものお世話をするなど、自然な形で異年齢児が関わり、年齢に応じた自立ができるような環境設定がされている。生活場面において互いに育ちあう姿が多くみられる。</p> <p>また、人の話がしっかり聞けて物事をきちんと考えられる子ども達に育てたいという考えから、園長自ら積極的に本の読み聞かせを行い、日常の中で子ども達が絵本に触れる時間を大切に取り入れている。年間を通じて絵本の世界を感じられるようにと、園内の掲示物や昼食の献立、作品展・遠足・運動会・誕生会などの行事に絵本の情景を取り入れるなどの取り組みや、決まったプログラムを設けず一日好きな遊びをする日の設定、専門家による音楽教室や体操教室の開催など、子どもの興味や関心、経験を大切に行っている。</p>
A-1-1(2)-② 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。	a	
A-1-1(2)-③ 子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友だちとの協同的な体験ができるような人的・物的環境が整備されている。	a	
A-1-1(2)-④ 子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境が整備されている。	a	
A-1-1(2)-⑤ 子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。	a	



A-1-(3) 職員の資質向上		
評価細目	評価結果	コメント
A-1-(3)-① 保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。	a	<p>●評価結果に基づいた質の向上に努めている</p> <p>スキルアップシートを活用して年に数回職員の自己評価を実施したり、カリキュラム検討会で保育の評価を行うことにより、自らの保育実践を振り返り、保育の質や職員の意識の向上に真摯に取り組んでいる。創始者の思いを丁寧に繋ぎながら、積み重ねてきた伝統の保育を基に、より質の高い保育を目指し努力している。</p> <p>勤続年数や職種に応じた園外研修はもちろん、ビデオを見ながらのロールプレイやグループ討議などの園内研修が行われている。職員は、プロジェクトチームによる活動を通して組織全体としての資質の向上を目指している。具体的には、「スキルアップ」や「リスクマネジメント」、「食育や保健」、「遊びと表現活動」、「保育環境向上」などについてチームで研究し、積極的な意見交換や、情報の収集を図りながら、一人ひとりの学習意欲や自主性を発揮できる環境を整えている。プロジェクトチームによる活動は組織全体としての質の向上に繋がっている。</p>

## A-2 子どもの生活と発達

A-2-(1) 生活と発達の連続性		
評価細目	評価結果	コメント
A-2-(1)-① 子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。	a	<p>●一人ひとりの子どもを受容して援助を実施している</p> <p>一人ひとりの育ちを確認しながら、個人差に配慮できるように職員間で情報を共有し、対応や支援の方法をきちんとチームで検討している。また、園全体で子ども達の思いを受容し、穏やかに接する事を心がけることで、子ども達にも落ち着きや自主性が育まれている。</p>
A-2-(1)-② 障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	a	<p>●配慮を要する子どもにとっても過ごしやすい環境が整備されている</p> <p>配慮を要する子どもも積極的に受け入れ、障害児の特性に合わせた月別の保育計画を作成し、担任だけでなく全職員で情報共有し、園内研修などでスキルアップしながら保育に従事している。保育士は温かい言葉やしぐさで接し、自由にのびのびと過ごせるように制止言葉やせかさうな言葉は一切見られず、縦割り保育の子ども達の自然な関わり合いの中で優しく育っている。</p>
A-2-(1)-③ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	b	<p>●長時間保育における軽食の提供に検討の必要が望まれる</p> <p>園で提供されるおやつは、すべて手作りおやつでカロリーも満たされている。しかし、長時間保育において、夕食や軽食の提供については話し合う機会が持たれていない。育ち盛りの子ども達の24時間を総合的に配慮した延長保育計画の中で、長時間保育による子ども達の体力面や情緒面の負担軽減、夕方自宅で過ごす子どもと同じ環境を整える視点から、自宅での夕食の妨げにならないような軽食の検討も期待したい。</p>

A-2-(2) 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場		
評価細目	評価結果	コメント
A-2-(2)-① 子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	a	<p>●適切な健康管理が行われている</p> <p>健康管理における必要な情報については伝言板記入などを通して、保護者、職員にすばやく周知徹底して感染予防や拡大防止に努めている。マニュアルは写真などが効果的に使われており、見やすわかりやすい。</p> <p>●食育を通して豊かな経験ができるような工夫が見られる</p> <p>「食えることが子どもの基本である」という考えから、食育指導がきちんと実施されており、楽しい雰囲気の中で食事をして、無理なく少しずつ偏食を改善していき、達成感を味わえる経験を大切にしている。</p> <p>園周りの土地をうまく利用して花や野菜作りを行う中で、収穫の喜びを感じ、給食材料にすることで、食べ物に対する愛情や興味を持たせている。テーマとなる絵本の一場面を行事食に取り入れるなど、食事においてはたくさんの工夫が見られる。</p> <p>毎日の手作りおやつと美味しい給食は、子ども達、保護者から大変好評を得ており、希望される保護者にはレシピの提供も行っている。</p>
A-2-(2)-② 食事を楽しむことができる工夫をしている。	a	
A-2-(2)-③ 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	a	
A-2-(2)-④ 健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	a	

A-2-(3) 健康及び安全の実施体制		
評価細目	評価結果	コメント
A-2-(3)-① 疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	a	<p>●安全な食事が提供されるように環境が整備されている</p> <p>アレルギーへの対応と誤食防止については、主治医の指示の下、看護師を中心に対応がなされている。マニュアルが整備され、職員への周知徹底や園内研修なども適切に行われている。アレルギーを持つ子どもに対しては、誤食防止のため他児と異なる食材使用や食器使用はあるが、給食職員の努力で、通常の食事と変わらないような盛り付けに配慮が行われている。また、周囲の子ども達みんなが、違いについて理解しており、違和感がないような雰囲気の中で、会話を楽しみながら、食事ができている。</p> <p>園長、副園長がそれぞれの衛生管理の場面でリーダーシップを発揮しており、衛生管理マニュアルは職員にも周知徹底されている。</p>
A-2-(3)-② 調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。	a	

### A-3 保護者に対する支援

A-3-(1) 家庭との緊密な連携		
評価細目	評価結果	コメント
A-3-(1)-① 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	a	<p>●食育の取り組みについての理解が図られている</p> <p>食育計画については保育課程の中に記載されており、食の通信などでは保護者にわかりやすい内容で「早寝・早起き、朝ごはん」の大切さをきちんと啓発している。玄関にサンプルの掲示やレシピを設置し、配布物と同時に食育の重要性についても保護者から理解を得ている。</p> <p>●虐待防止に対する体制整備が行われている</p> <p>虐待防止措置についてマニュアルが整備されており、園内研修、職員周知、関係機関の連携などの体制の整備がなされている。</p> <p>●家族とのさらなる信頼関係の構築に期待する</p> <p>連絡帳や個別懇談会、保育参加などを通して保護者とのコミュニケーションを図り、子どもの成長の喜びを共有するように努めているが、今回の第三者評価における保護者アンケートにて、少数意見だが土曜保育の預けづらさを感じる意見がうかがえた。近年の家庭の養育力低下という状況も加味しながらの配慮や保護者への助言・指導方法の検討が望まれる。</p>
A-3-(1)-② 家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	b	
A-3-(1)-③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	a	
A-3-(1)-④ 虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。	a	